## 地球科学 Rによる統計解析 櫻井雄太

物理学コース 17S2016F

I. 解析内容

Search Earthquake Catalog

https://earthquake.usgs.gov/earthquakes/search/

で得られた地震のデータ [経度(東経)、深さ、マグニチュード](6332件)で主成分分析を行った。

対象は以下の通り

地震発生時刻:1973年1月1日0時0分-2020年01月27日23時59分

マグニチュード:4以上

範囲:北緯37-42度、東経130-143度

Ⅱ. 解析結果(コンソール)

[1] "means"

longitude depth mag

141.305715 63.077552 4.624198

[1] "stds"

longitude depth mag

1.8236653 75.9200830 0.4607352

[1] "correlation matrix"

longitude depth mag

longitude 1.00000000 -0.70649994 0.06486333

depth -0.70649994 1.00000000 -0.09829902

mag 0.06486333 -0.09829902 1.00000000

[1] "--- pca ---"

[1] "固有値(の正の平方根)"

[1] 1.3133442 0.9911750 0.5410167

[1] "固有ベクトル"

PC1 PC2 PC3

longitude -0.6964684 0.13515291 -0.70474495

depth 0.7001420 -0.08725209 -0.70865238

mag -0.1572669 -0.98697556 -0.03385791

[1] "主成分得点(最初の6件のみ)"

PC1 PC2 PC3

[1,] -0.5326681 0.1355238 0.07483007

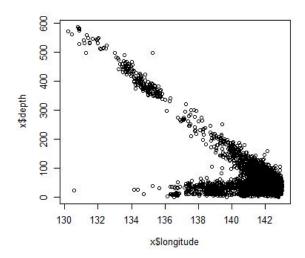
[2,] -0.4458787 0.7956135 -0.33890389

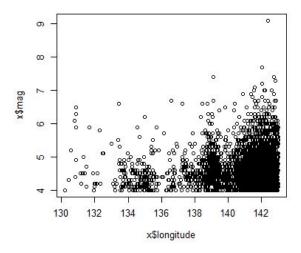
[3,] -0.7346190 -0.4920818 0.07655325

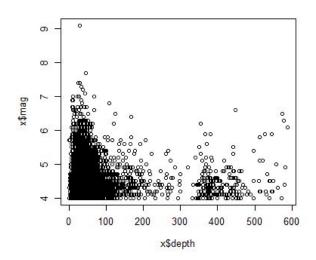
[4,] 1.5314058 0.2636776 -0.42745469

[5,] 1.8651760 -0.8873826 -0.47603483

[6,] -0.3224280 0.7820242 -0.51618668







## Ⅲ. 考察

第一主成分は経度と深さに関係する因子である。経度と深さは-0.7の負の相関があり、第一主成分がが大きくなると、より深く、より西にある地震を指すことになる。つまりこれは海溝型地震に影響された因子であることがわかる。

第2主成分はマグニチュードの因子である。ほぼマグニチュードの成分しか入っていないのは、マグニチュードと経度、深さの相関係数がそれぞれ0.06486333、 -0.09829902とほどんど相関がないからである。

第3主成分は経度と深さの因子である。第3主成分の得点が大きいと、より西にある、浅い地震を指す。これは経度と深さの相関の散布図を見ても一見よくわからない。あくまで推測だが、第1主成分と直行する方向に第3主成分をとり、内陸型地震をも表そうとしたのではないか。(はっきりとしたことはいえないが。)

## IV. 参考文献

Rによる主成分分析

https://data-science.gr.ip/implementation/ida\_r\_pca.html

第二部-2- 地球の科学

https://www.s-yamaga.jp/nanimono/chikyu/shingenbunpu-02.htm